

ヒグマ対策への支援に関する要望

北海道のヒグマの個体数は、平成2年度の推定中央値で5,200頭であり、令和2年度には11,700頭と、30年間でおよそ2倍以上に増加しております。

一方、ヒグマの捕獲数は、令和3年度には、統計が残る昭和37年以降、最多となる1,056頭を捕獲しておりますが、道警察へのヒグマ出沒に係る通報件数は、本年9月時点で3,110件と過去5年間の年間通報件数を超えるなど、人里周辺への出沒が多発しており、休校や公園の閉鎖なども相次ぎ、憂慮すべき事態となっております。

こうした状況を踏まえ、道では令和5年春から、人里周辺のヒグマの低密度化、ヒグマへの警戒心の植え付けを目的として、残雪期に行う「春期管理捕獲」を始めましたが、179市町村中、19市町村の参加、捕獲頭数は20頭に留まり、捕獲従事者に経済的支援がないことや、ヒグマに対応できる捕獲従事者の確保が難しくなっているという課題が見えてきました。

道では現在、こうした課題に対応し、「春期管理捕獲」の拡大を目指して、様々な施策の検討を進めておりますが、国におかれましても、人とヒグマとの軋轢がかつてないほど高まっているという現状を御理解いただき、ヒグマ対策への支援について特段の御配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

【要望事項】

- 人的被害の防止に向け、ヒグマの生息数の抑制や、市街地への出沒抑制のために必要なヒグマの捕獲に対する報酬に加え、弾代・燃料費・処分費用などの出動経費に対する支援など、ヒグマ対策に係る新たな支援制度の創設を図ること。
- 春期管理捕獲の確立・拡大に向け、ヒグマ捕獲従事者の育成・確保や捕獲強化に資するモデル事業を実施すること。